



水稲刈跡の雑草除草について

水稲刈跡に、水田にほふく茎をのぼして畦畔から侵入するキシウスズメノヒエやアシカキがはびこった時、難防除雑草のクログワイ、ホタルイ、ミズガヤツリなどが20cm程度に再成長した時は、『ラウンドアップマックスロード』の50倍液を10aあたり25ℓ散布することが、雑草防除に効果的です。但し、『ラウンドアップマックスロード』は茎葉処理除草剤であり、雑草がワラに隠れていると効果が薄れますのでご注意ください。

また、低温になり、雑草の生育が停滞する頃になると浸透移行の効果が落ちますので、晩秋(11月から12月のはじめ)頃までに散布しましょう。『ラウンドアップマックスロード』はアミノ酸系除草剤です。土に落ちた成分は微生物が分解して、水や炭酸ガスになります。土に成分が残ることはないので、散布した翌日に耕起、その後播種、定植しても問題なく作物を作ることが可能です。

例えば水田、大豆、麦、野菜耕起場で散布した翌日に耕起可能です。ただしタマネギは耕起5日前までの散布

になります。

耕起だけでは雑草は土中で生き残ることがあるので、耕起前に散布することで、雑草を根まで枯らし、その結果、作物の初期生育を確保することができます。

※水稲刈跡に『ラウンドアップマックスロード』を利用される場合、29年度の農薬カウントに1成分プラスとなります。エコ富士米(環境こだわり米)の作付者はご注意ください。



土に落ちた成分

- 水
- アミノ酸
- 炭酸ガス
- リン酸塩
- 天然生成物

ソラマメ



手軽にできる有機ペランダ栽培

ソラマメは取りたてを塩ゆでするのが究極の調理法。大きく茂るため場所を取りますが、キッチンと直結のペランダ栽培で最高のぜいたくを味わいましょう。根の酸素要求量が多いので、深さ30cm前後の深型の根菜用のコンテナがおすすめです。奥行きが22〜24cm、間口が60cm程度のコンテナであれば、1条植えで5株栽培できます。連作を嫌うので培土には新しい土、少なくとも3〜4年はマメ科を栽培していない土を使います。

収穫は初夏ですが、種まきは10月です。温暖地では10月下旬、寒冷地はそれよりも早い10月上旬が目安ですが、時期は地域の適期に従います。

間口60cmのコンテナでは、株間は13cmが適当で1カ所に2粒まきます。2粒の種は間隔を空け、種子が大きい分酸素を多く必要とするので浅まきにします。お菌黒と呼ばれる黒い部分を斜め下にして、種の尻部が地上に少し出るくらいに差し込みます。浅まきのため種が乾きやすいので十分に水やりをします。水流で種が露出しないように注意し、土が流れたら足しま

す。本葉1枚の頃にぼかし肥20gを施し、その後は3週間置きに1月末までの間、同量を追肥します。

実付きを良くするには、草丈を大きく伸ばし多くの葉を付けることが大切です。早い時期から支柱を立て成長に備えます。支柱はコンテナの四隅に立て、それぞれを連結し、テープなどを使いしっかりと固定します。草丈が大きくなってきたら、茎葉がコンテナの外側に倒れないように、麻ひもなどをぐるりと回し支えます。なお、春先はアブラムシが急激に増殖しますが、発生しやすい枝の先端部をあらかじめ切り取っておくと被害を抑えることができます。

収穫は開花から35〜40日くらいが目安です。さやが大きく膨らみ、さやに産毛がなくなり光沢を帯びてきます。さやの背筋が黒褐色になり、空を向いていたさやが水平に下がってきたら収穫します。

